

スマホを使うと○○になる

職員室でスマホや携帯の恩恵と問題点について話題が盛り上がっている。スマホによって人の頭が悪くなっているという論（実に大胆だ）も出ていて、私は妙に納得させられた一人である。脳科学の知見は知らないが、せいぜい電話（固定電話）が通信手段だった頃は、大事な連絡先の番号をいくつも覚えていたし（最近忘れっぽいのは別問題）、子どもたちも自宅の電話番号が言えないなどということはなかった。ところが、携帯やスマホに記録するようになると、電話番号を打ち込む操作がほとんどなくなるので、覚える必要がなくなり、高い割合で自分の番号さえ言えない人がいるのが現状ではないか。先日の市教研の研修会の話題ではないが、OUTPUT する必要がないのだから、INPUT も不要になったわけである。使わなければ覚え不了、単純明快な理屈である。

県教委が発表する職員事故の中に「スマホ」「LINE」「メール」がらみの話題もある。これはあくまでも推測なのだが、保護者や生徒と教職員が LINE の連絡を始めるきっかけは、親切や熱意や便利さなどがあってのことと思う。最初からそういうトラブルの元になることをしようとしてではないのだろう。自分は大丈夫、そういう気持ちもあったことだろう。が、しかし、事態は良からぬ方向に動く。手元にどこにでも、誰にでもつながる道具があれば、それはつなげてみたくなる。よく現代人はつながりが希薄になっているので、つながりを求めて夢中になっていくのだという人もいる。本当にそうなのだろうか。また、それが本物のつながりなのだろうか。少なくとも、小中学生のつながりは、通信を介してのものではなくて、対面でのリアルなつながりが大切なのではと思うのだが、どうだろう。

現代の日本では「危ない」「おいしい」「まずい」「かっこいい」これを全部「やばい」ですませる会話がなされている。少ない語彙で成り立つ会話。「それ、やばいよね」で何でも通り過ぎるなら、苦勞してたくさんの語彙を手に入れる必要はなくなったのだろうか。一見すると楽で便利なようだが、何か腑に落ちない自分がいる。大事な何かを失ってはいるのではないか、そんな気がして仕方ないのである（国語の先生、教えてください）。本校の研修テーマも「言語活動の充実」を掲げている。このあたりは関係がないことだとは思えない。道具も言葉も便利さを手に入れると、もしかしてその分、何かを失っているのではないか、そういう漠然とした不安がよぎる。

先日、出張があって電車に乗ったら、座席の人が並んで一斉にスマホを操作していたことに気づいた。周囲を見渡すと、立っている人も私の周辺はみなスマホをいじっていて、持たない私は取り残された感いっぱいになった（苦笑）。先生方も見ていると大半がスマホを利用しているようだが、どうしてスマホにしたのか聞いてみたい気がする。いったいどんなことにお使いになっているのでしょうか。また、本当にスマホが必要なのか、誰か教えてくれませんか？

